

農福連携 × スマート農業

農福連携の現場で
スマート農業に取り組む事例があります。

農福連携って何？

農業と福祉が連携し、
障害者の農業分野での
活躍を通じて、
農業経営の発展
とともに、
障害者の自信や
生きがいを創出し、
社会参画を実現する取組です。

スマート農業って何？

ロボット、AI、IoTなど
先端技術を活用する農業
のことです。
農作業の効率化、
農作業における
身体負担の軽減、
農業の経営管理の合理化による
農業の生産性の向上の
効果が期待されます。

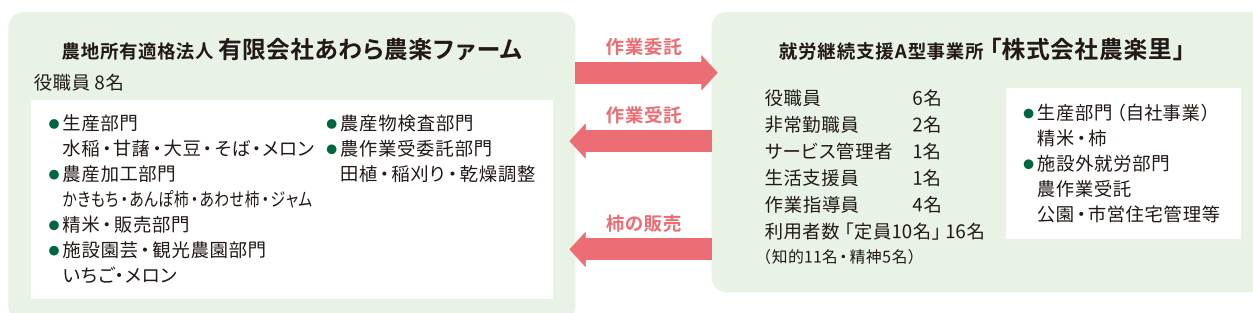
作成：一般社団法人日本農福連携協会、株式会社マイファーム 令和8年3月1日発行
※農林水産省「令和7年度農山漁村振興交付金」を活用して作成



有限会社あわら農楽ファーム

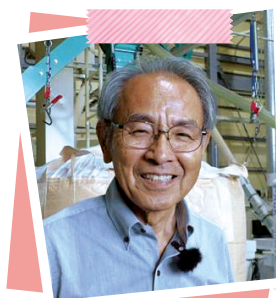
基本情報

- 所在地：福井県あわら市山室72-101
 - 設立：2001年3月（2013年に現社名へ変更）
 - 経営面積：105ha（うち作業受託28ha）
 - 主な作物：水稻（主力）、さつまいも、いちご、メロン、柿など
 - 受賞歴：ノウフク・アワード2023準グランプリ「未来を耕す」
 - その他：認定農業者
- 2013年に就労継続支援A型事業所「株式会社農楽里（※）」を設立
※ノウフク・アワード2025優秀賞



取組概要

就労継続支援A型事業所「株式会社農楽里」と連携し、農福連携で水稻や野菜の栽培、農産加工、観光いちご農園などに取り組む。



スマート農業と農福連携の可能性

スマート農業は、農福連携と、とても相性がいいと思っています。アシスト機能やセーフティ・ストップ機能のおかげで安全に作業でき、高度な農作業へのハードルがぐっと下がります。段階的に操作を覚えられるので、“できる”という実感が、障害者の仕事への意欲やモチベーションの向上につながっています。

有限会社あわら農楽ファーム／執行役員 齋藤峰雄氏

スマート農業の導入技術と障害者の活躍

導入技術	障害者の関わり方
ロボット田植機・アシスト付きコンバイン	障害者がオペレーターとして活躍。 安全機能（セーフティ・ストップ）により操作負担や事故リスクを低減。作業する障害者はヘルメットやインカムを装着し、ほ場にいる職員と常に連絡がとれる体制をとり、障害者が安心感を持って作業できる環境を整えている。
小口精米ユニット・乾燥調整施設（遠隔操作）	従来の精米作業は職員が中心に行っており、障害者は袋詰め・運搬等の補助的作業であったが、小口精米ユニットの導入により、今は、搬入から検品、計量、袋詰めまでほとんどの作業を障害者が担当している。 ※乾燥調整施設の温度管理はパソコンで遠隔操作が可能のため、職員が常駐しなくてよい。



ロボット田植機での田植え作業



出荷調整施設での段ボールの組み立て作業

※ドローン（防除用）や営農管理システムも導入。同技術は職員が操作等行う。

農福連携におけるスマート農業の効果

●障害者の作業領域拡大

これまで職員や熟練者に限られていた作業も障害者が携われるようになり、作業の幅と役割が大きく広がっている。あわら農楽ファームでは、大規模な面積の効率的な管理につながり、職員が実施できる作業の拡大にもつながっている。

●障害者の自信・生きがいの創出

自分にはできないと思っていた作業を高精度かつ効率的に実施できることで、大きな喜びと自信、そして誇りにつながっている。

●労働力や担い手の確保・作業効率の改善

⇒**経営耕地面積の拡大** (作業受託面積を含む) R2: 74ha⇒R6: 105ha

●品質向上・農作業以外の時間の創出 (販路拡大)

⇒**売上高の向上** R2: 6,417千円⇒R6: 21,454千円

●障害者の賃金向上

障害者へ支払う平均賃金月額 R2: 71,306円⇒R6: 87,038円



アシスト付きコンバインでの稲刈り作業

障害者がスマート農業等で活躍するための工夫

●まずは刈払機による草刈りから挑戦

エンジンの始動・停止や給油といった機械操作の基本から指導することで、体力と技術を段階的に習得していき、最終的にコンバインといった農業機械等も扱うことができるようになっていく。

●安心して挑戦できる環境づくりと人材育成

本人の挑戦意欲を尊重し、成功体験を積み重ねることで自信と誇りを育てている。あわせて、操作研修や安全講習を通じた資格取得・技能習得を支援し、身につけた知識や技術を自らの強みとして実感できるようにすることで、将来の選択肢拡大や次のステップへの意欲向上につなげている。

●安定供給の実現

農産物の「価格の安定」「量の確保」「品質の安定」を実現することが大変重要。スマート農業で障害者の自信やモチベーションの向上につなげている。



刈払機での草刈り作業



スマート農業で活躍している障害者数 R2: 0名 ⇒ R6: **4**名



その他、有限会社あわら農楽ファームの特徴

●特別栽培米の栽培

有機質肥料の活用や水管理の徹底により、品質の高い米づくりを行い、環境負荷の低減及び付加価値の創出につなげている。

●特別栽培米や加工品をふるさと納税の返礼品として展開

販路の拡大と安定及び認知度向上を図るとともに、地域の集客に貢献している。

●地域農業への貢献

高齢化や担い手不足により耕作が難しくなった農地の引き受けや、作業受託を通じて地域農業を支えている。



精米の検品



あんぽ柿の皮むき作業

